

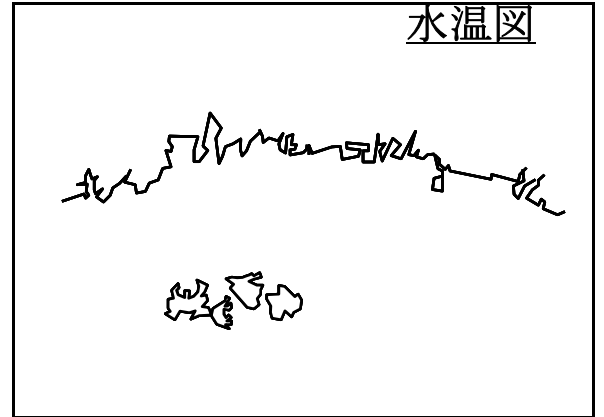
兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 11号)

2021年 1月18日発行
 兵庫のみ研究所

地先漁場では窒素のかなり低い状況が続いており、珪藻の発生量も全体的に減少しています。一方、沖合漁場において珪藻の発生動向は前回(1/7)調査と比較し大きな変化は認められませんが、窒素が全般に1 $\mu\text{g-at/L}$ 前後と減少していました。

(栄養塩、珪藻)

地先海域は前回調査と同種の珪藻が見られるが、細胞の色素が抜けかけており発生量は減少している。ユーカンピアは地先で海水1mlあたり40細胞前後、沖合で多くても10細胞までと今のところ大幅な増加は見られない。沖合海域において珪藻は一部の漁場でやや目立って確認される。窒素はこれら珪藻に因る消費や近隣海域(岡山・香川県)で大きく低下していることもあり、全般に1 $\mu\text{g-at/L}$ 前後の値であった。



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.5	0.3	1.8	0.9
	リン	0.38	0.32	0.35	0.31
家島・坊勢	窒素	2.0	0.9	4.1	2.0
	リン	0.53	0.44	0.56	0.54

(1/7) (1/20)

栄養塩 (窒素) 図

2021年 1月18日調査

